

本郷新構想の軌跡

彫刻美術館 直筆スケッチなど123点展示

本郷新の没後40年となった昨年から始めたコレクション展の第3弾。彫刻の設計図をはじめ、直筆スケッチなど123点を展示している。

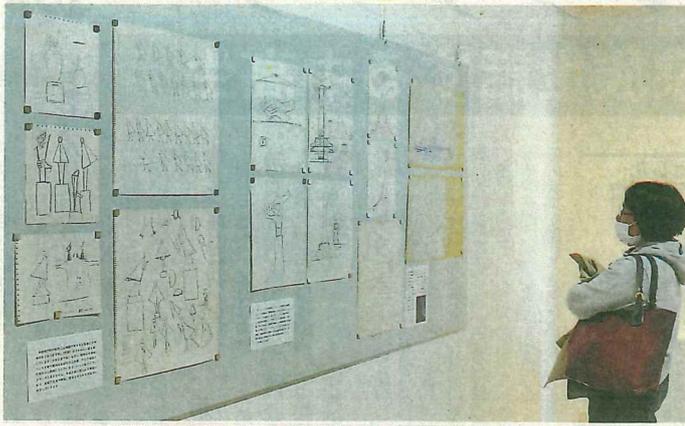
北海道開拓記念碑として制作した「風雪の群像」（旭川）や、プロレタリア作家小林多喜二の文学碑（小樽）などのスケッチでは、完成品と異なる形状で描かれている。鉛筆で寸法の計算を書き込んだものもあり、構想から完成までの工程が分かる。

担当した山田のぞみ学芸員は「本郷さんが何を考えながら作品を作ってきたのか、模索の跡を見てほしい」と話している。

6月27日まで。観覧料は一般300円、65歳以上250円、高校・大学生200円、中学生以下無料。月曜休館だが、5月3日は開館する。

「風雪の群像」や多喜二の文学碑…

札幌出身の彫刻家本郷新（1905～80年）が制作した彫刻の設計図などを紹介する「本郷新・全部展③彫刻の設計図」が、札幌市中央区の本郷新記念札幌彫刻美術館で開かれている。展示物の大半が初公開だ。（村上辰徳）



本郷新の直筆スケッチなどを公開しているコレクション展